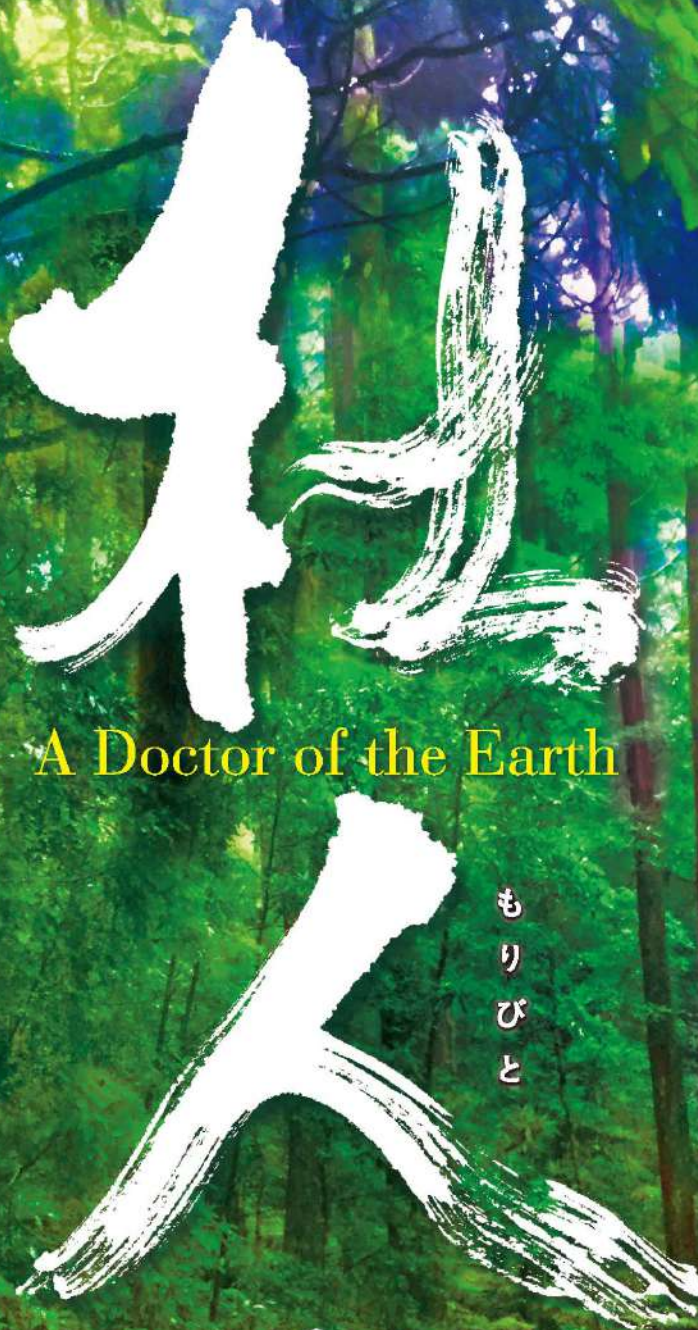


ナウシカのような人に
出逢った。



A Doctor of the Earth

もりびと

環境再生医

矢野智徳の挑戦

人間よりも自然に従う風変わりな「医者」

3年間の格闘と再生の記録

出演/矢野智徳 監督・撮影・編集/前田せつ子 制作スーパーバイザー/藤瀬あや 音楽/山口洋 (HEATWAVE)・水城ゆう
エンディングテーマ/G.Yoko「わたしをつつむもの」 制作・配給/リンカランフィルムズ

クラウドファンディングで
初日に目標額を達成。
最終達成率495%の
話題作

なぜ、
植物が枯れていくのか。
なぜ、
生きものが
減っていくのか。
なぜ、
豪雨災害は
年々激しさを増すのか。
すべてに共通する原因
それは
「大地の呼吸」
にあった。

各界から推薦の声！

人間が分断してしまった自然の動的平衡を回復しようとする人々の、地道な、しかし希望に満ちた物語。
ポストコロナの生命哲学がここにある。

福岡伸一（生物学者 / 『生物と無生物のあいだ』著者）

「自分にしかわからない」という孤独を一心に背負って
大地と向き合い続ける矢野さんの後ろ姿に、つい心を奪われる。
そして大地が呼吸し始め、元気になっていく動植物を見つめる
彼の嬉しそうな目の奥に「真実」を見る。

鶴田真由（女優）

杜を破壊するのは人、杜を再生できるのも人、貴方の選択は？

平井一夫

（ソニーグループシニアアドバイザー / 一般社団法人プロジェクト希望代表理事）

小さな移植ゴテで土に語りかけると、それに応えて風や水が大きく動く。
生きものである私たち人間の「地球での生き方」はこれだ
とわかり、これから自信を持って生きていけそうです。

中村桂子（生命誌研究者）

全国で多発する水害を、彼は自分の痛みのように感じている。

玄侑宗久（慧日山福聚寺住職 / 作家）

矢野智徳さんに初めて会ったときの
衝撃を忘れない。

「虫たちは葉っぱを食べて空気の通りをよくしてくれている」
「草は根こそぎ刈るから反発していつそう暴れる」
「大地も人間と同じように呼吸している」

植物や虫、大地、生きとし生けるものの声を代弁するような言葉は
ナウシカのようなだった。風のように枝を払い、穴を掘る様子はイノシ
シのよう。こんなふう自然と関わればどれほど豊かに生きられる
だろう。いや、人間であることの罪悪感が少しは軽くなるかもしれない。
それから4年後。技術も知識も経験も機材もない中で、彼を追いか
ける旅は始まった。何処へ行っても、傷んだ自然とコンクリートがあっ
た。そして、汗だくで草を刈り、泥だらけになって土を掘り、笑顔で帰っ
ていく人々がいた。2018年7月。西日本で大変な災害が起きた。
彼が以前から警告していたことが現実となったのだ。被災現場に駆け
つけた矢野さんは言った。

「土砂崩れは大地の深呼吸。息を塞がれた自然の最後の抵抗」

かつての人々が大切にしていた言葉、「杜（もり）」とは「この場所を
傷めず 穢さず 大事に使わせてください」と人が森の神に誓って紐
を張った場。

自然と共に生きるすべを、人間という動物の遺伝子はきつとまだ憶
えている。この映画がその記憶の小箱を開く鍵となることを切に願う。

監督 前田せつ子



矢野智徳（やのともりの） 1956年福岡県北九州市生まれ。父親の徳助氏が私財を投じて始めた花木植物園「四季の丘」で10人兄弟とともに植物の世話をして育つ。東京都立大学理学部地理学科・自然地理を専攻。在学中に日本一周を敢行。1984年矢野園芸を始める。1995年の阪神淡路大震災を機に環境改善の新たな手法に取り組み、「大地の再生講座」を各地で開催。

出演 / 矢野智徳・玄侑宗久（福聚寺住職・作家）・石田智子（福聚寺寺庭・アーティスト）・堀 信行（地理学者 / 理学博士）・「杜の学校」スタッフ・「大地の再生」全国支部・「大地の再生講座」参加者の皆さん ほか
監督・撮影・編集 / 前田せつ子 制作スーパーバイザー / 額織あや 音楽 / 山口 洋・水城ゆう ナレーション / 光野トミ・林 穂羽 題字 / 奈良裕之 ドローン撮影 / 石田伸二 (i Daps) アニメーション制作 / 清水有紗・糸井みき
制作協力 / 「杜人」を応援する会・「杜人」プロジェクト 監音 / 石川雄三 色調補正 / 村石 誠 広告デザイン / 山下リサ 制作・配給 / リンカンフィルムズ 2022年 / 日本 / カラー / 16:9 / 101分

息をしている限り、まだ間に合う。奇跡のドキュメンタリー

Lingkar
FILMS

